

天竜川ダム再編事業 (事業費等の監理状況)

令和8年7月29日
国土交通省中部地方整備局
天竜川ダム再編工事事務所

1. 事業の概要	1
1) 流域の概要・現状	1
2) 事業の目的及び計画内容	3
3) 事業の経緯	6
4) 事業の全体工程	7
5) 事業の進捗状況	9
2. 令和7年度予算	11
1) 実施内容	11
2) 事業実施箇所	12
3) 個別説明	13
(1) 治水対策関係 工事費	13
(2) 継続調査関係 測量設計費	14
(3) 治水対策関係 測量設計費	15
3. 事業費・工期変更（R7.8）後の事業費増減	16
4. 令和8年度予算	17
1) 実施内容	17
2) 事業実施箇所	18
3) 個別説明	19
(1) 治水対策関係 工事費	19
(2) 継続調査関係 測量設計費	20
(3) 治水対策関係 測量設計費	21
5. 本事業における取り組み	22

1. 事業の概要

1) 流域の概要・現状

- ・天竜川は、幹川流路延長約213km、流域面積5,090km²の我が国で有数の大河川である。
- ・流域には、約163万人(10市12町15村)の人々が生活しており、この地域の産業・経済・社会・文化の基盤を築いてきた。

佐久間ダム(電源開発(株)S31完成)

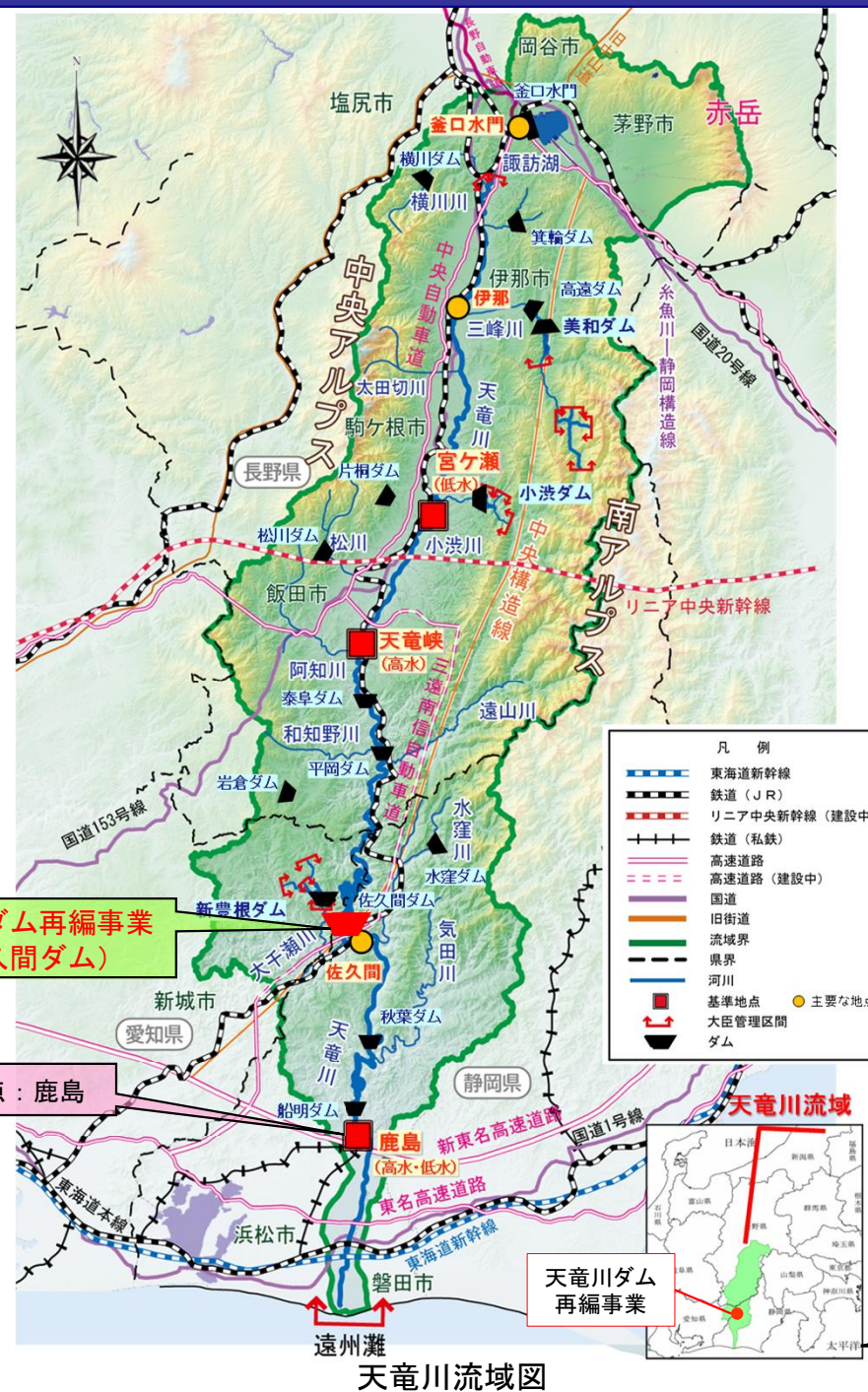


天竜川の流域概要

流域面積	5,090km ²
幹川流路延長	約213km
流域市町村数	10市12町15村※1
主要都市	飯田市(約10万人)※2 浜松市(約80万人)※2
流域関係市町村人口	約163万人※2

※1 諏訪市、伊那市、飯田市(長野県)、浜松市、磐田市(静岡県)等

※2 人口の出典:国勢調査(令和2年)

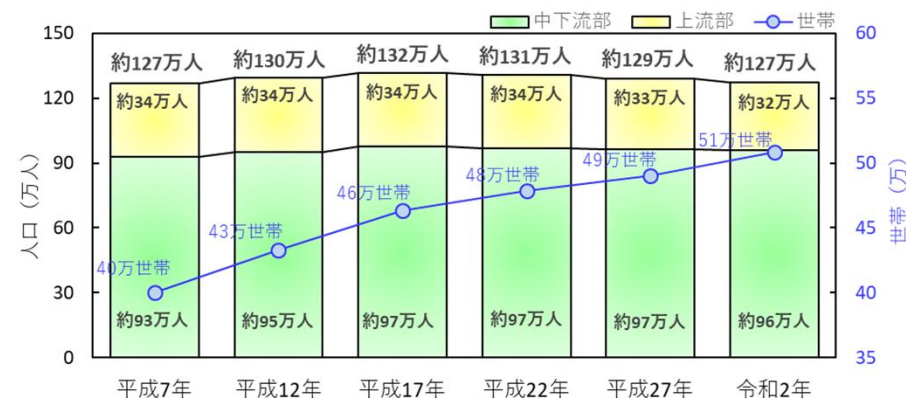


1. 事業の概要

1) 流域の概要・現状

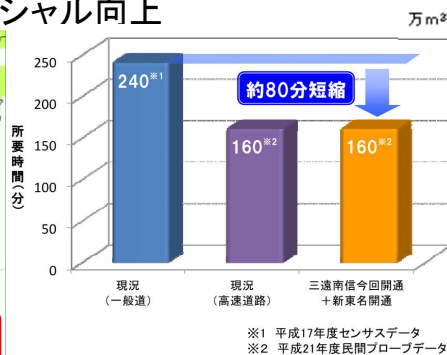
- ・天竜川沿川市町村の人口に近年大きな変化はなく、下流氾濫域（浜松市、磐田市）では、市街地が形成され人口が集中している。
- ・天竜川下流流域内は、東名高速道路、国道1号、JR東海道新幹線等、東西を結ぶ、国土の基幹をなす交通の要衝となっている。
- ・平成24年4月から新東名高速道路が開通し、さらに令和9年度には全線開通予定など、新たな交通網の整備が進んでいる。
- ・浜松市並びにその周辺地域を含む浜松地域は、自動車産業、オートバイ産業、楽器産業が盛んであり、日本有数の「ものづくりのまち」として発展しており、日本経済を支える重要な地域となっている。

天竜川沿川市町村の人口推移

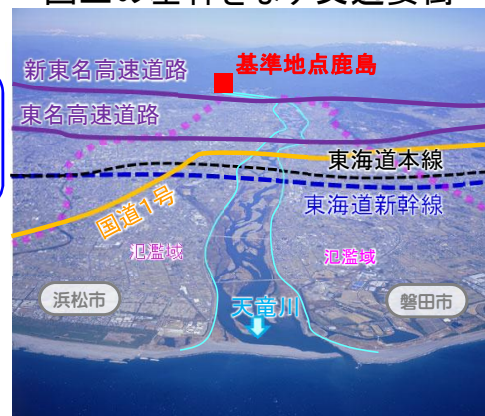


沿川市町村（15市町村）：浜松市、磐田市、飯田市、伊那市、駒ヶ根市、飯島町、松川町、高森町、宮田村、中川村、喬木村、豊丘村、南箕輪村、箕輪町、辰野町（出典：令和2年国勢調査）

三遠南信自動車道による地域経済ポテンシャル向上



国土の基幹をなす交通要衝



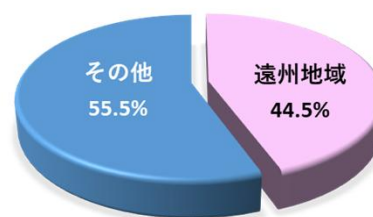
出典：三遠南信自動車道（鳳来峡IC～浜松いなさ北IC）開通による整備効果の具体例

遠州地域の産業と全国シェア

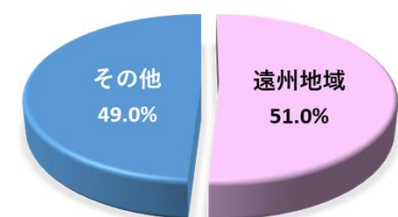
主な産業	全国比率
軽四輪自動車	51.0% ^{※1}
二輪車	44.5% ^{※2}
楽器（ピアノ）	100.0% ^{※3}

※1 浜松経済指標 2025
一般社団法人日本自動車工業会 生産四輪統計
※2 浜松経済指標 2025
※3 Myしずおか日本一 一覧表

二輪車生産台数全国比率^{※1}



軽四輪車生産台数全国比率^{※2}



遠州地域：浜松市、湖西市、磐田市、袋井市、掛川市、菊川市、御前崎市、周智郡森町

※1 浜松経済指標 2025、一般社団法人日本自動車工業会 生産四輪統計
※2 浜松経済指標 2025

2)事業の目的及び計画内容

(1)事業の目的

- ・既設の利水専用ダム(佐久間ダム;昭和31年(1956年)完成、電源開発(株))を有効活用し、新たに洪水調節機能を確保して、天竜川中下流部の洪水氾濫から人々の暮らしを守る。
- ・佐久間ダムに新たに確保した洪水調節容量を維持するとともに、ダム湖に流入する土砂の一部を河川に還元することで土砂移動の連続性を確保し、遠州灘沿岸の海岸侵食の抑制等への寄与を目指す。

(2)計画内容

○実施箇所(天竜川水系天竜川) : (右岸) 愛知県北設楽郡豊根村 (左岸) 静岡県浜松市天竜区佐久間町

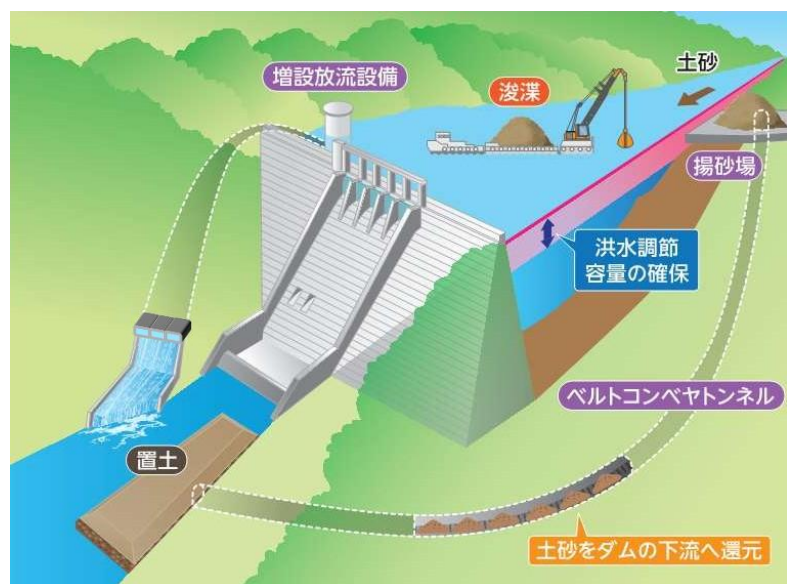
○計画内容

〈洪水調節〉

佐久間ダムに新たに洪水調節容量を確保し、放流設備の増強を行う。

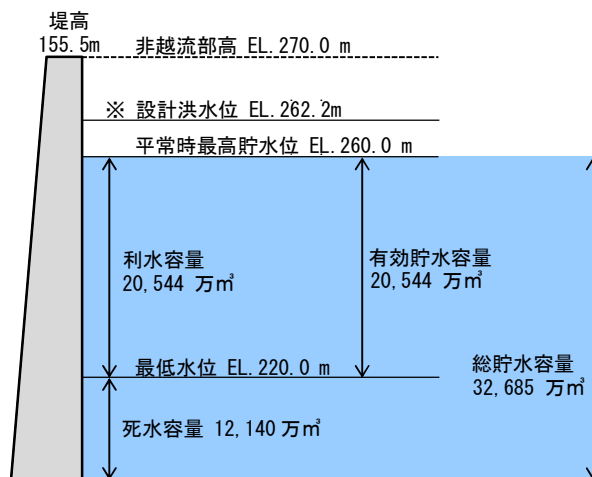
〈恒久的な堆砂対策〉

洪水調節容量を維持し、ダム湖に流入する土砂の一部を河川に還元するための堆砂対策施設の整備を行う。



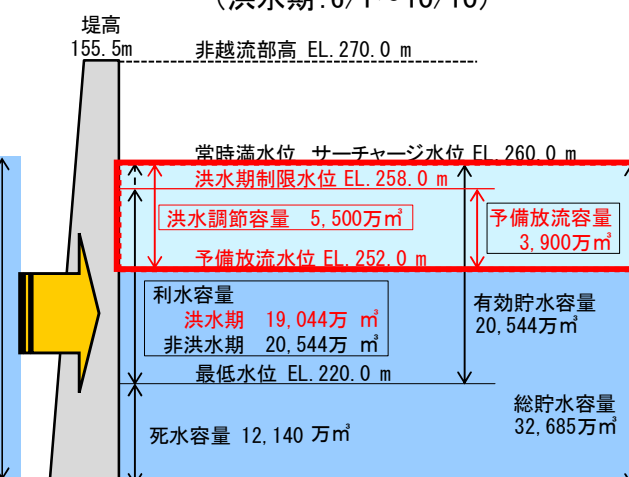
天竜川ダム再編事業のイメージ

〈現在の貯水池容量配分図〉



〈再編後の貯水池容量配分図〉

(洪水期:6/1~10/10)



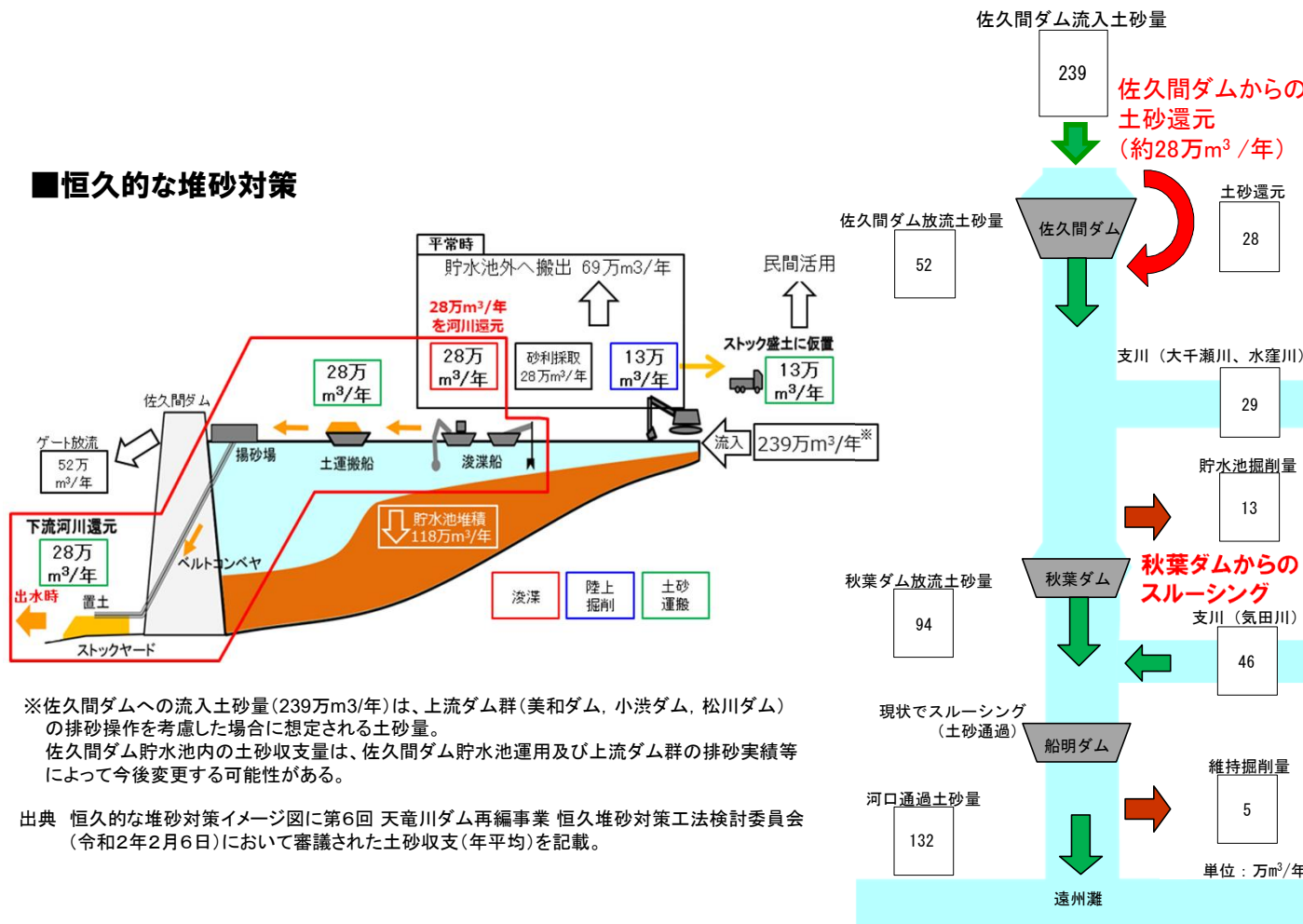
※現構造令の名称では、サーチャージ水位に相当

2)事業の目的及び計画内容

(3)事業の効果(恒久的な堆砂対策)

- ・天竜川ダム再編事業にて実施する恒久的な堆砂対策は、佐久間ダムに新たに確保した洪水調節容量を維持するとともに、洪水時の背水による貯水池上流部における水位上昇の防止・軽減を目的に実施。
- ・恒久的な堆砂対策により貯水池から浚渫した土砂は、ダム下流河川へ還元することで土砂移動の連続性を確保し、遠州灘沿岸の海岸侵食の抑制等へ寄与。
- ・置土より河川に還元した土砂のほとんどが海岸に到達すると推定。

■恒久的な堆砂対策



※佐久間ダムへの流入土砂量(239万 m^3 /年)は、上流ダム群(美和ダム、小渋ダム、松川ダム)の排砂操作を考慮した場合に想定される土砂量。
佐久間ダム貯水池内の土砂収支量は、佐久間ダム貯水池運用及び上流ダム群の排砂実績等によって今後変更する可能性がある。

出典 恒久的な堆砂対策イメージ図に第6回 天竜川ダム再編事業 恒久堆砂対策工法検討委員会 (令和2年2月6日)において審議された土砂収支(年平均)を記載。

■遠州灘沿岸の海岸侵食状況



■河川管理者、海岸管理者と連携して対策を推進



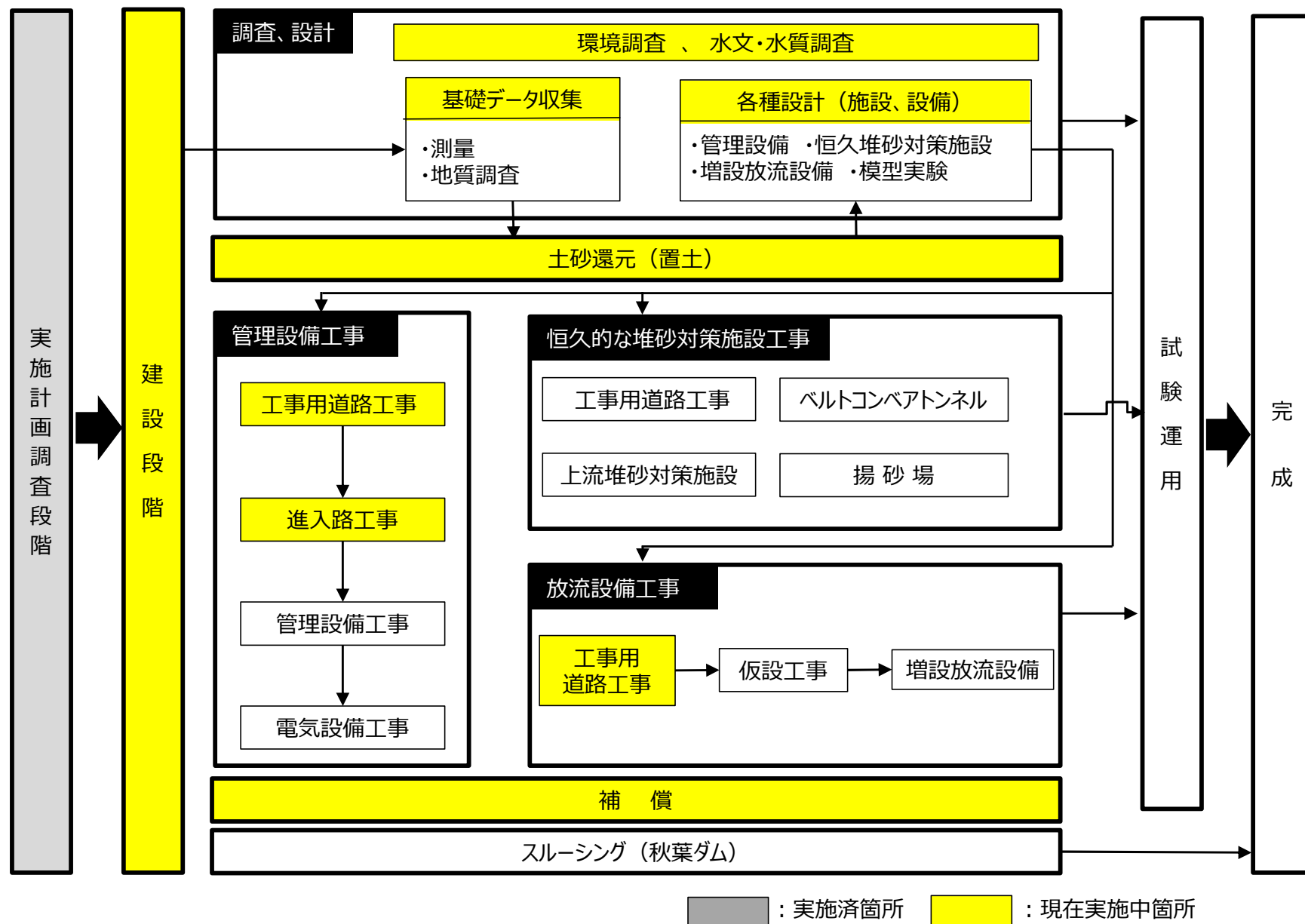
河川に還元(置土)した土砂のほとんどが海岸に到達すると推定

3)事業の経緯

昭和31年	10月	佐久間ダム（電源開発）完成
平成16年	4月	実施計画調査に着手
平成20年	7月	天竜川水系河川整備基本方針策定
平成21年	4月	建設事業着手
	7月	天竜川水系河川整備計画策定
平成21年 ～ 平成25年		天竜川ダム再編事業 排砂工法実証実験検討委員会設置（全10回） ・（H25.2とりまとめ）堆砂対策工法として計画している吸引工法は、実証実験の結果佐久間ダムでの適応が困難
平成24年	7月	事業評価監視委員会にて審議（事業継続）
		対応方針：天竜川の治水安全度の向上のために、新たな洪水調節機能を確保することの重要性に鑑み、効果の早期発現に向け、事業の進め方を含めた段階的な対応について検討するとともに、引き続き恒久堆砂対策施設について検討を進めていくこととする。
平成28年 ～ 令和2年		天竜川ダム再編事業 恒久堆砂対策工法検討委員会設置（全6回） ・（R2.2とりまとめ）堆砂対策工法の決定：吸引工法 → ベルトコンベヤ等を用いた置土、流入部土砂対策
令和2年	6月	天竜川水系流域委員会にて再評価、対応方針原案（事業継続）を了承（令和2年9月25日 対応方針（継続）を決定） ・工期延伸：令和3年度 ⇒ 令和13年度 ・吸引工法→ベルトコンベヤを用いた置土、流入部土砂対策（事業費は精査中のため変更せず）
令和5年	12月	天竜川水系河川整備基本方針を気候変動を踏まえて変更
令和6年	4月	天竜川ダム再編工事事務所の開設
令和6年	7月	天竜川水系河川整備計画変更
令和7年	7月	天竜川水系流域委員会にて再評価、対応方針原案（事業継続）を了承（令和7年8月26日 対応方針（継続）を決定） ・工期延伸：令和13年度 ⇒ 令和20年度 ・事業費変更：約790億円 ⇒ 約1,900億円

4) 事業の全体工程

(令和8年3月末時点)



4) 事業の全体工程

- ・令和19年度までに増設放流設備及び恒久的な堆砂対策施設等の整備を完成し、試験運用等を経て令和20年度に事業完了の予定。

年度		2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	2032 (R14)	2033 (R15)	2034 (R16)	2035 (R17)	2036 (R18)	2037 (R19)	2038 (R20)
仮 設 備	工事用道路工事															
洪水 調節	管理設備工事															
	放流設備工事															
	試験運用															
河川への 貯水池維持 土砂還元	河川への土砂還元 モニタリング															
	堆砂対策施設工事															
	試験運用															
用地及び補償																

※工程は現時点の予定であり、今後の状況等により変更となる場合があります。

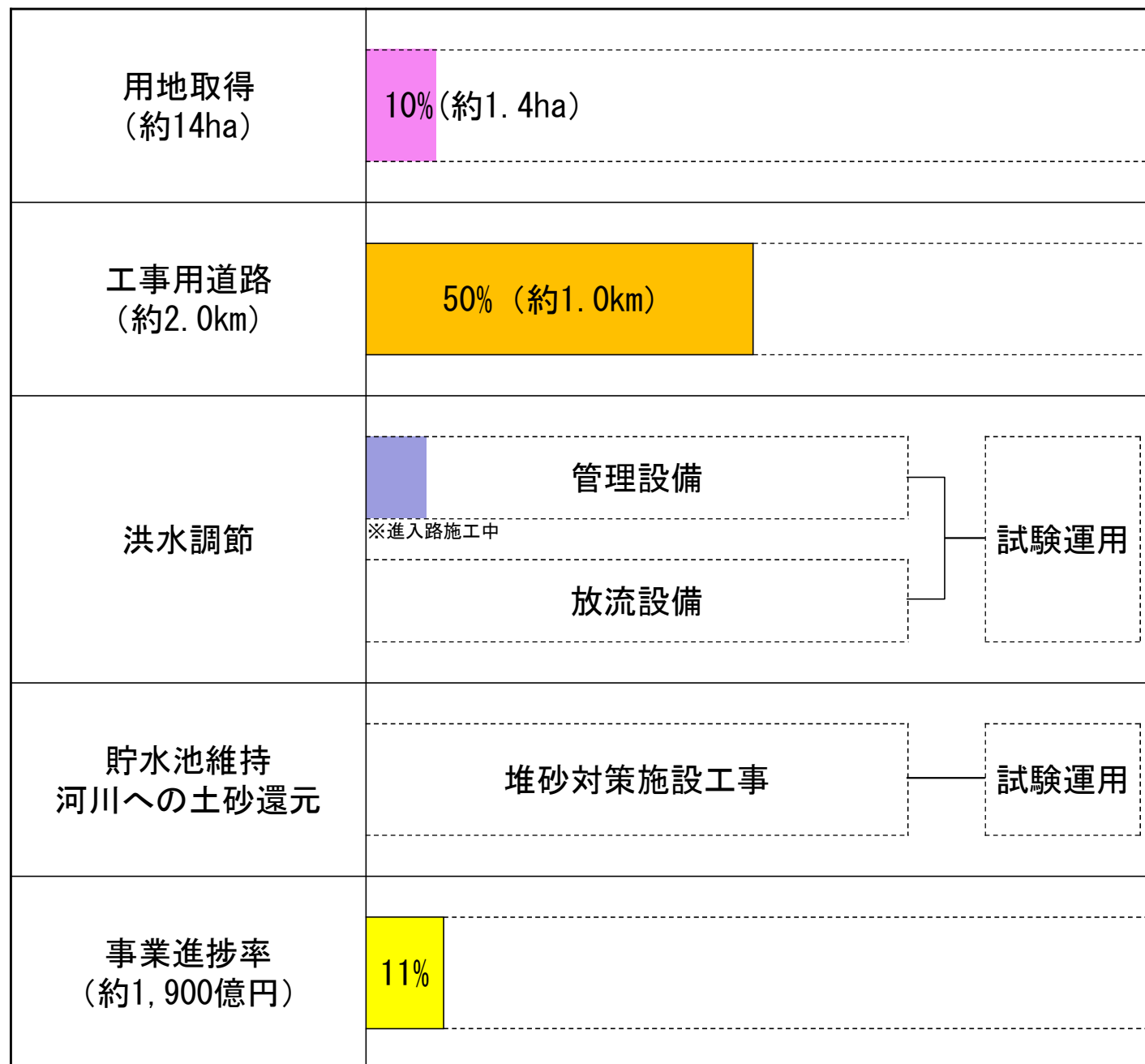
※実施年度予算ベースに対しての着色。

5) 事業の進捗状況

○予算執行状況

(令和8年3月末時点)

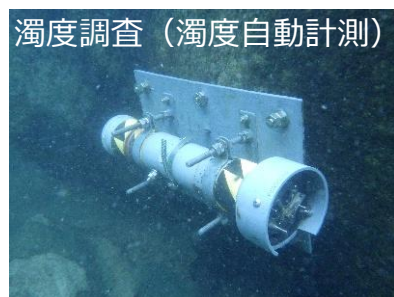
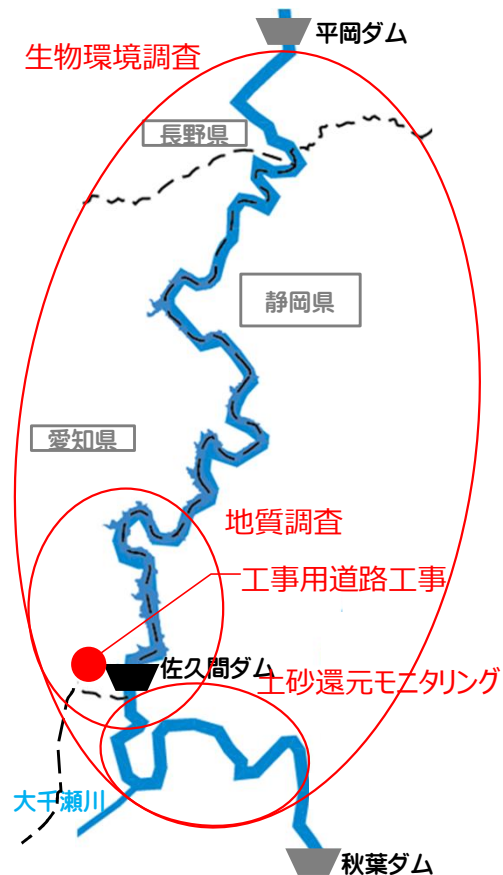
- ・総事業費 約1,900億円
(うちリスク対策費155億円を含む)
- ・R7年度 約18.8億円
(補正予算含む)
- ・R8年度 約11.3億円
- ・R7年度迄 約205億円
(進捗率 約11%)



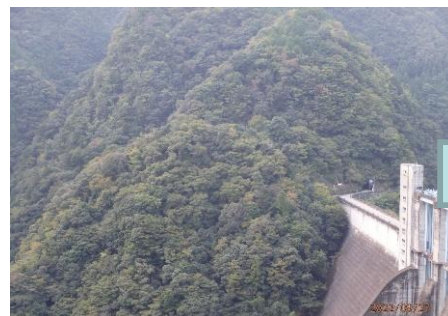
※ 工事用道路は着手した工事の施工延長進捗率

5) 事業の進捗状況

主な事業個所



土砂還元モニタリング (Sediment Reduction Monitoring)



工事用道路工事 (操作室敷地造成) (Construction Road Work (Construction of Operation Room Site))



地質調査 (Geological Survey)



生物環境調査 (Biodiversity Environment Survey)

2. 令和7年度予算

1) 実施内容

○令和7年度予算額

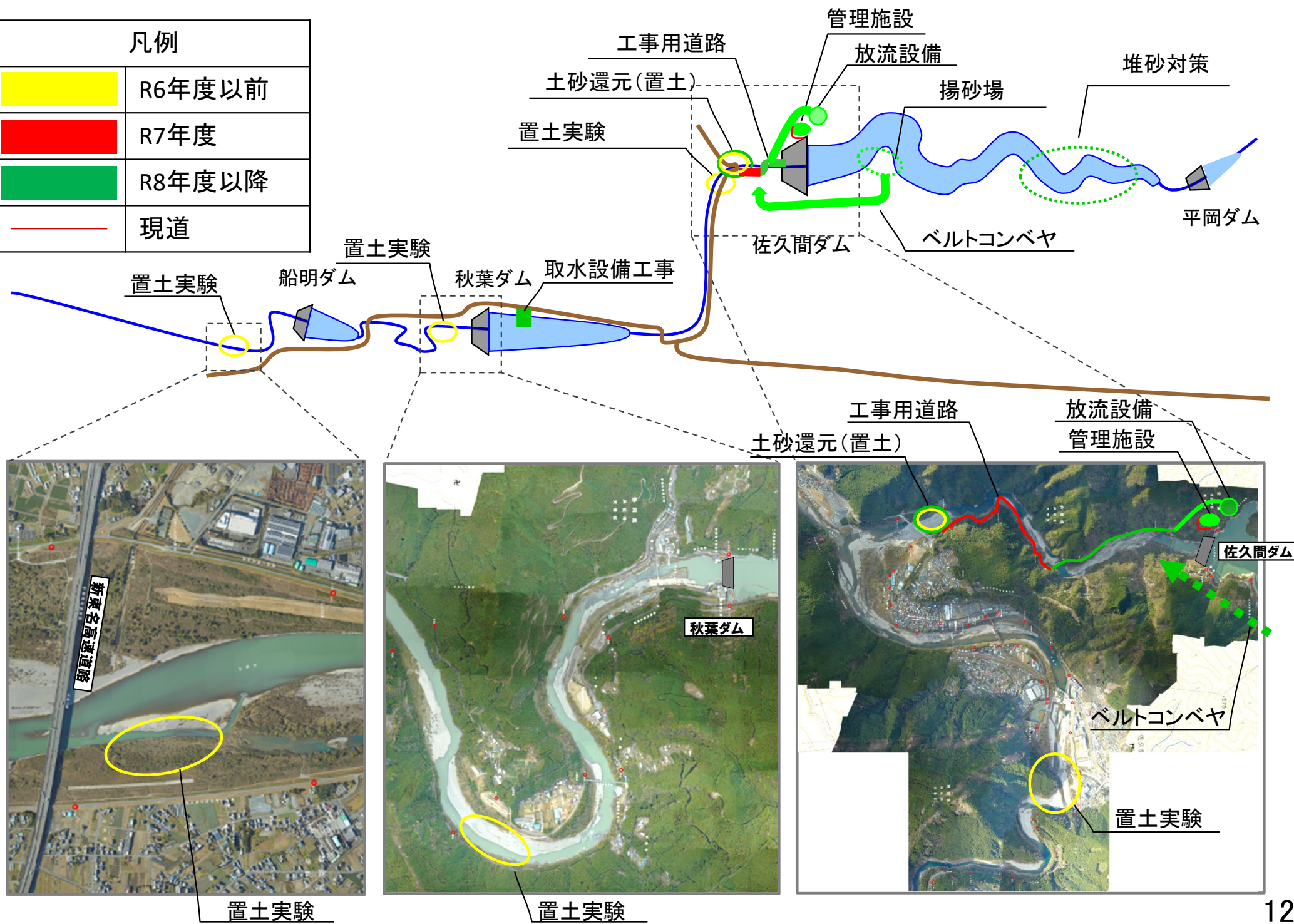
(単位: 百万円)

予算費目	当初予算の主な実施内容	令和7年度当初予算				令和6年度補正予算			
		当初	変更	(増減額)		主な変更要因		補正	変更 (増減額)
工事費		約 477.6	約 503.0	(25.4)				約 0.0	約 0.0 (0.0)
	①治水対策関係								
	ダム下流工事用道路	約 30.0	約 17.2	(-12.8)		【その他減】数量の精算による減		約 0.0	約 0.0 (0.0)
	操作室敷地造成工事用道路	約 440.0	約 473.5	(33.5)		【純増】既設擁壁の背後地盤の健全性が確認できなかったことにより、仮設構台を設置したことによる増		約 0.0	約 0.0 (0.0)
	②その他								
	発注者支援等	約 7.6	約 12.3	(4.7)		【その他増】監督支援業務の実施数量の精査による増		約 0.0	約 0.0 (0.0)
測量設計費		約 401.9	約 376.7	(-25.2)				約 160.0	約 160.0 (0.0)
	①継続調査								
	モニタリング調査、環境調査	約 139.0	約 82.9	(-56.1)		【先送り減】増設放流設備の型式変更等による現地調査内容(河床材料調査、魚類調査、底生動物調査、生育環境調査、室内分析)の見直しによる減		約 0.0	約 0.0 (0.0)
	②用地・建物調査								
	用地調査、権利調査、兼用化施設調査	約 45.0	約 11.3	(-33.7)		【先送り減】工程の見直しによる減		約 0.0	約 0.0 (0.0)
	③治水対策関係								
	施設設計・施設設計に伴う地質調査等	約 149.7	約 155.0	(5.3)		【その他増】ボーリング調査の実施数量の精査による増		約 67.0	約 67.0 (0.0)
	④堆砂対策関係								
	施設設計・施設設計に伴う地質調査等	約 27.5	約 26.8	(-0.7)		【その他減】落札差金による減		約 0.0	約 0.0 (0.0)
	⑤地すべり調査関係								
	貯水池周辺地質調査等	約 0.0	約 71.1	(71.1)		【前倒し増】地すべり解析を実施したことによる増(22) 【純増】落石による足場被災にのため調査位置を変更し、再度掘削を行ったことによる増(20) 【その他増】ボーリング調査の実施数量を精査したことによる増(29)		約 93.0	約 93.0 (0.0)
	⑥その他								
	発注者支援等	約 40.7	約 29.6	(-11.1)		【その他減】数量の精算による減		約 0.0	約 0.0 (0.0)
用地費及び補償費		約 8.0	約 8.6	(0.6)				約 0.0	約 0.0 (0.0)
	①立木補償								
	操作室工事用道路	約 8.0	約 8.6	(0.6)		【その他増】補償額の精査による増		約 0.0	約 0.0 (0.0)
船舶及び機械器具費		約 9.7	約 9.7	(0.0)				約 0.0	約 0.0 (0.0)
	①電気通信設備 保守点検等								
	電気通信保守点検等	約 9.7	約 9.7	(0.0)				約 0.0	約 0.0 (0.0)
事業車両費		約 1.4	約 0.6	(-0.8)				約 0.0	約 0.0 (0.0)
	①車両管理関係								
	車両管理・点検等	約 1.4	約 0.6	(-0.8)		【その他減】実施数量の精査による減		約 0.0	約 0.0 (0.0)
工事諸費等		約 114.4	約 114.4	(0.0)				約 0.0	約 0.0 (0.0)
	①営繕・宿舍・車両・広報費等								
	営繕・宿舍・車両・広報費等	約 114.4	約 114.4	(0.0)				約 0.0	約 0.0 (0.0)
予算額		約 1,013.0	約 1,013.0	(0.0)				約 160.0	約 160.0 (0.0)

※令和6年度補正予算は、令和6年12月17日に成立

2) 事業実施箇所

凡例	
	R6年度以前
	R7年度
	R8年度以降
	現道



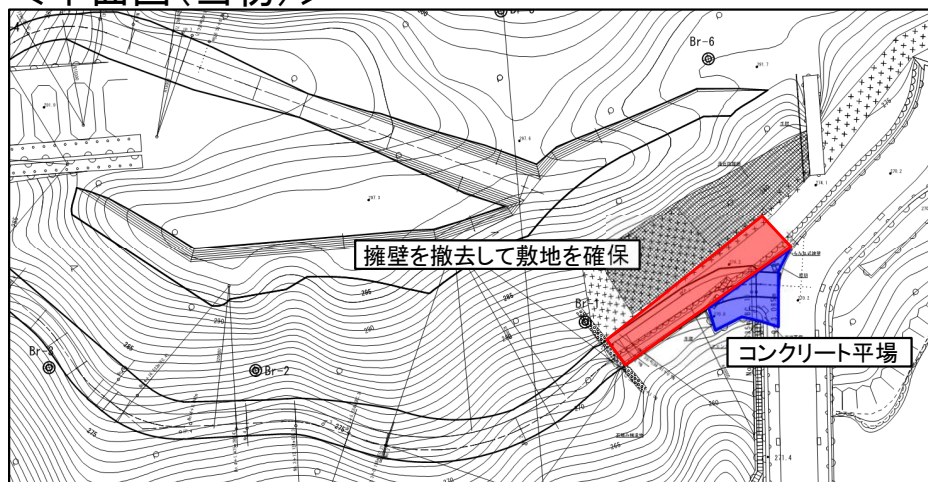
3)個別説明

(1) 治水対策関係 工事費

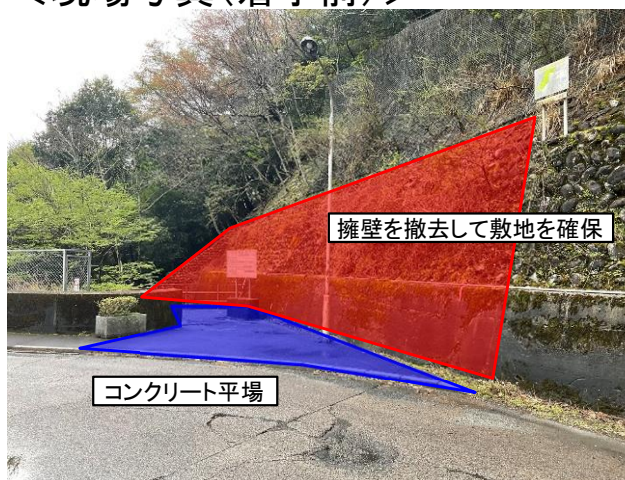
変更要因

【34百万円 純増】土工及び伐採作業における作業ヤードは、既設の擁壁を撤去し、コンクリート平場と併せて確保することを想定していたが、現地調査の結果既設擁壁背後の地盤が脆く、崩落する可能性がでてきたため擁壁を撤去することは危険だと判断した。既設のコンクリート平場のみでは掘削土砂の仮置きや伐採材の荷下ろし場としては狭隘で作業ができないため、作業ヤードの確保のため仮設構台を設置したことによる増

<平面図(当初)>



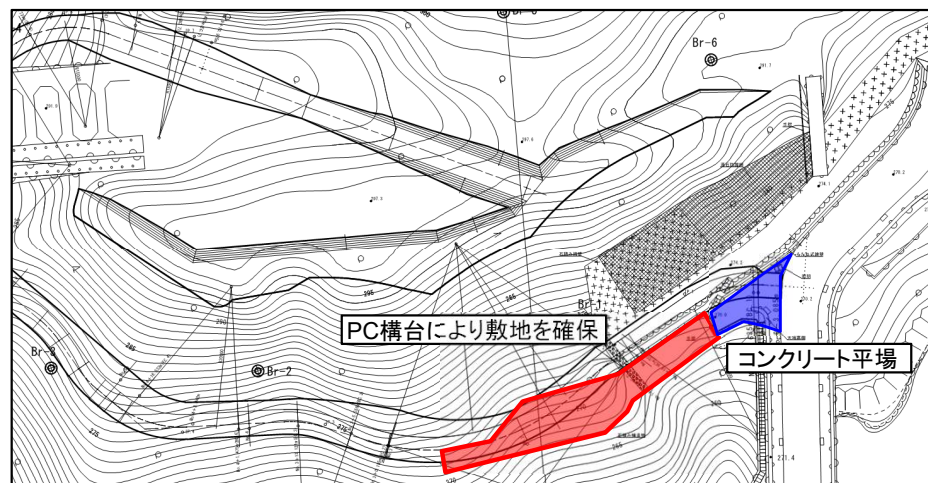
<現場写真(着手前)>



一部伐採後の状況



<平面図(変更)>



<現場写真(完成後)>



工事用道路完成後の状況



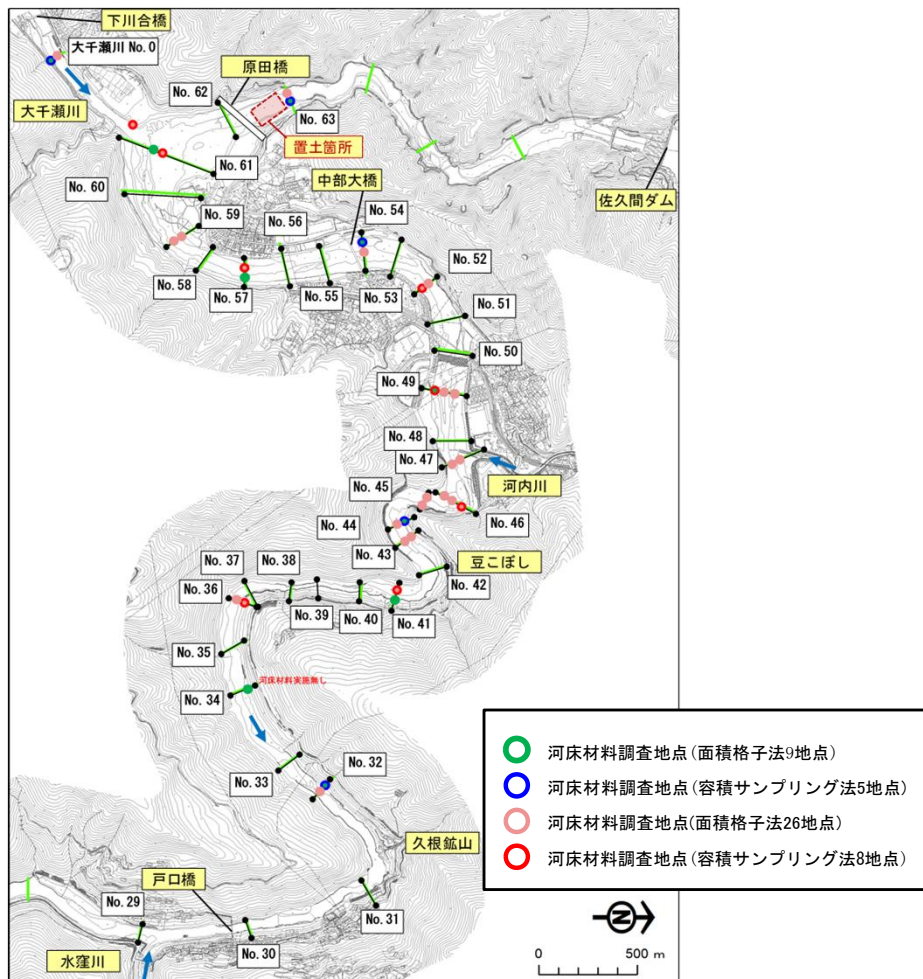
3) 個別説明

(2) 継続調査関係 測量設計費

変更要因

【56百万円 先送り減】工法変更に伴い、土砂還元による影響確認方法について見直す必要があり、河床材料調査、魚類調査、底生動物調査、生育環境調査、室内分析を一時的に中止したことによる減

＜河床材料調査位置図（令和6年度）＞



＜物理環境調査＞

河川測量



＜生物環境調査＞

アユ生育調査



底生生物調査



3) 個別説明

(3) 治水対策関係 測量設計費

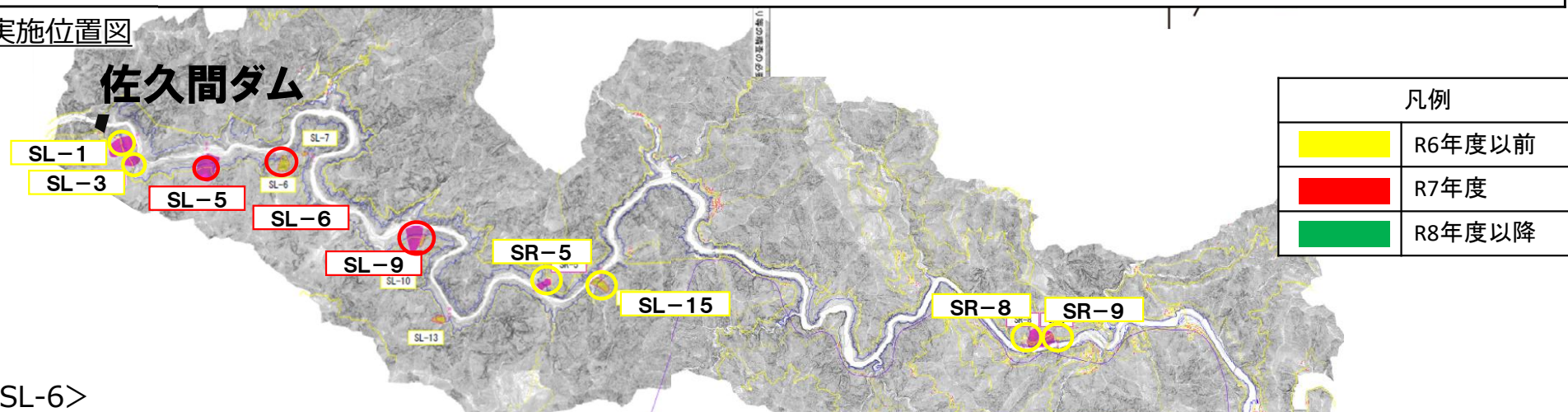
変更要因

【22百万円 前倒し増】地すべり解析を実施したことによる増

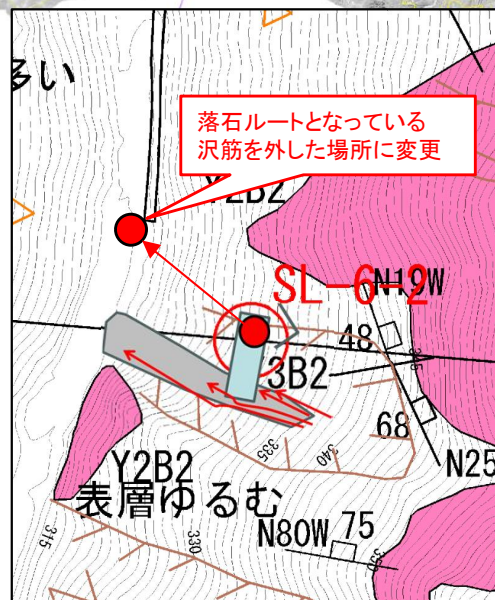
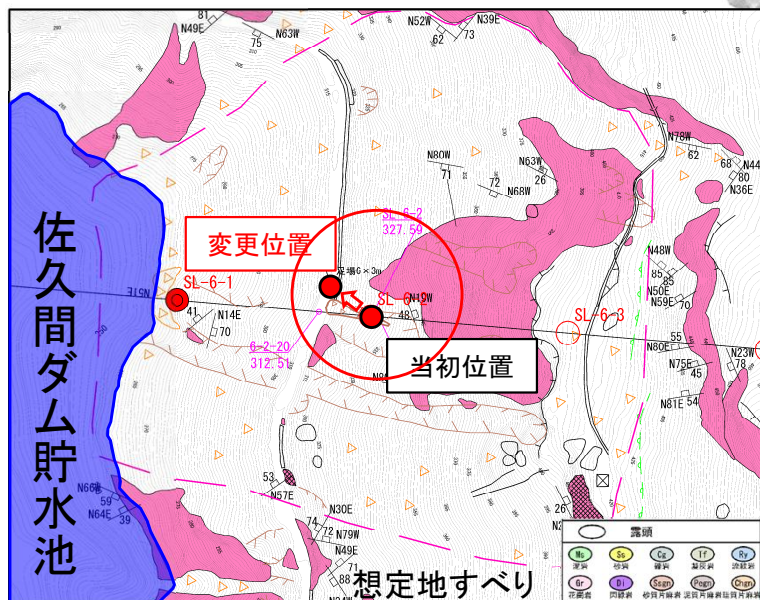
【20百万円 純増】落石による足場被災のため調査位置を変更し、再度掘削を行ったことによる増

【29百万円 その他増】ボーリング調査の実施数量を精査した(地すべり面が想定よりも深かった)ことによる増

ボーリング実施位置図



平面図 <SL-6>



落石を想定してより防護柵を設置していたが、想定以上の大きさの落石により貫通

3. 事業費・工期変更(R7.8)後の事業費増減

- ・ 事業費・工期の変更後に生じた事業費増減については下表のとおり。
- ・ R7年度予算における現段階の増額の見通しでは、操作室敷地造成工事用道路の仮設構台の追加設置による約34百万円の増額、地すべり調査において落石被災のため調査位置を変更し、再度掘削を行った事による約20百万円等の増額が必要となっており、減額分を差し引いた合計額は約68百万円となっている。

		主な項目	主な理由	増減額	備考
令和7年度	増額	工事用道路関係	既設擁壁の背後地盤の健全性が確認できなかったことにより、仮設構台を設置したことによる増	約 +34百万円	P13
		地すべり調査関係	落石による足場被災のため調査位置を変更し、再度掘削を行ったことによる増	約 +20百万円	P15
		その他増	実績精査による数量増	約 +40百万円	-
		増額計		約 +93百万円	-
	減額	その他減	実績精査による数量減	約 -25百万円	-
		減額計		約 -25百万円	-
	令和7年度合計			約 +68百万円	-
過年度累計	増額	純増		約 0百万円	-
		その他増		約 0百万円	-
		増額計		約 0百万円	-
	減額	純減		約 0百万円	-
		その他減		約 0百万円	-
		減額計		約 0百万円	-
	過年度合計			約 0百万円	-
合計			約 +68百万円	-	

※本ページの事業費増減には、実施時期の見直しによる増減(「前倒し増」および「先送り減」)は含んでいない

4. 令和8年度予算

1) 実施内容

○令和8年度予算額

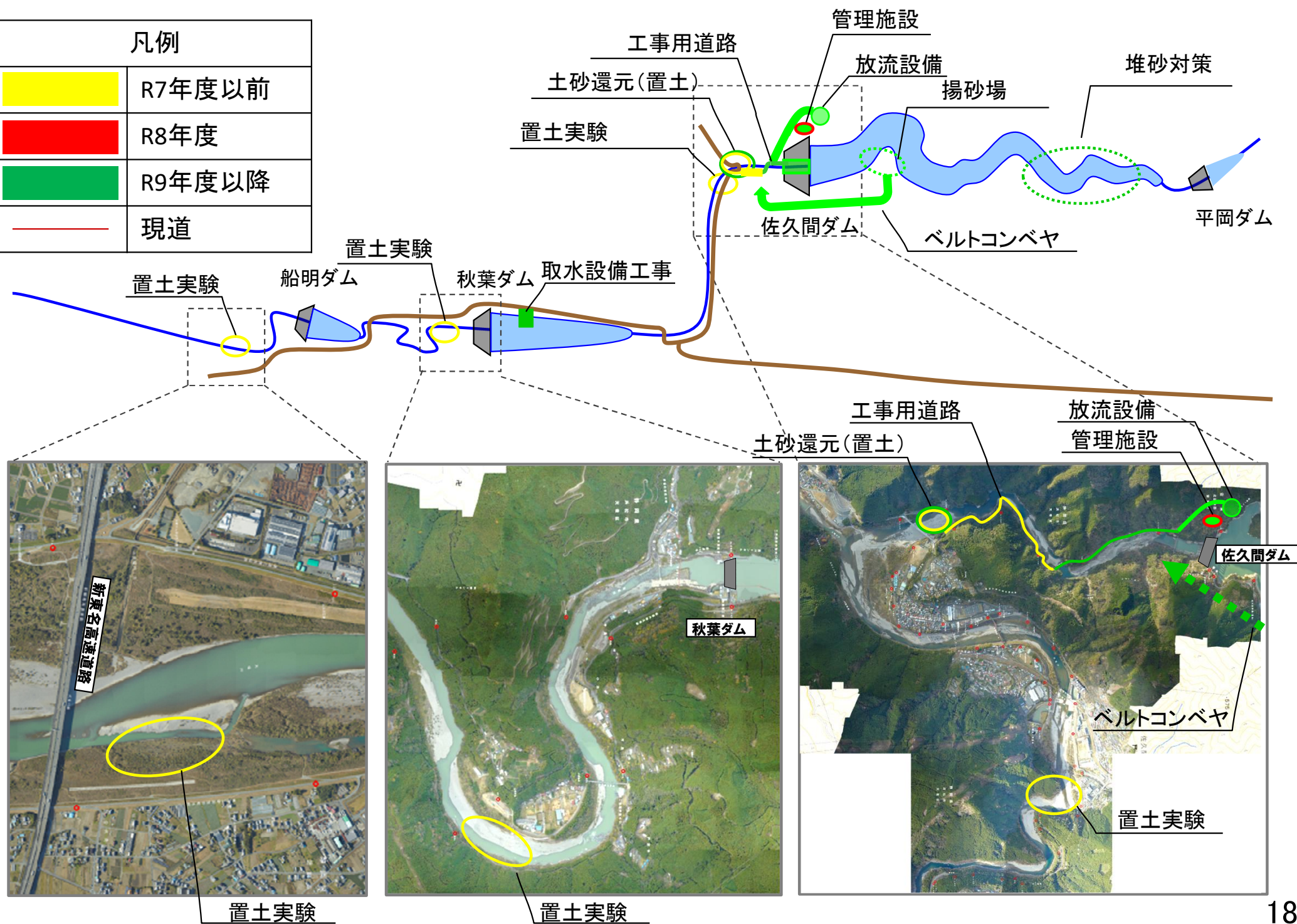
(単位:百万円)

予算費目及び主な実施内容			令和8年度当初予算	(参考値) 令和7年度当初予算	(参考値) 令和7年度当初予算変更	令和7年度補正予算
工事費			約 610.4	約 477.6	約 503.0	約 100.0
	①治水対策関係	ダム下流工事用道路	約 0.0	約 30.0	約 17.2	約 0.0
		操作室敷地造成工事用道路	約 0.0	約 440.0	約 473.5	約 100.0
		操作室敷地造成関連工事	約 580.0	約 0.0	約 0.0	約 0.0
	②その他	発注者支援等	約 30.4	約 7.6	約 12.3	約 0.0
測量設計費			約 342.1	約 401.9	約 376.7	約 765.0
	①継続調査	モニタリング調査、環境調査、土砂還元影響予測	約 110.0	約 139.0	約 82.9	約 0.0
	②用地・建物調査	用地調査、権利調査、兼用化施設調査	約 50.0	約 45.0	約 11.3	約 32.2
	③治水対策関係	治水計画検討、施設設計・施設設計に伴う地質調査等	約 110.0	約 149.7	約 176.7	約 704.3
	④堆砂対策関係	施設設計・施設設計に伴う地質調査等	約 0.0	約 27.5	約 26.8	約 28.1
	⑤地すべり調査関係	貯水池周辺地質調査等	約 0.0	約 0.0	約 49.4	約 0.0
	⑥その他	発注者支援等	約 72.1	約 40.7	約 29.6	約 0.5
用地費及び補償費			約 14.0	約 8.0	約 8.6	約 0.0
	①用地取得	用地買収	約 14.0	約 8.0	約 8.6	約 0.0
船舶及び機械器具費			約 9.7	約 9.7	約 9.7	約 0.0
	①電気通信設備保守点検等	電気通信保守点検等	約 9.7	約 9.7	約 9.7	約 0.0
事業車両費			約 16.4	約 1.4	約 0.6	約 0.0
	①車両管理関係	車両管理・点検等	約 16.4	約 1.4	約 0.6	約 0.0
工事諸費等			約 140.1	約 114.4	約 114.4	約 0.0
	①営繕・宿舍・車両・広報費等	営繕・宿舍・車両・広報費等	約 140.1	約 114.4	約 114.4	約 0.0
予算額			約 1,132.6	約 1,013.0	約 1,013.0	約 865.0

※令和7年度補正予算は、令和7年12月16日に成立

2) 事業実施箇所

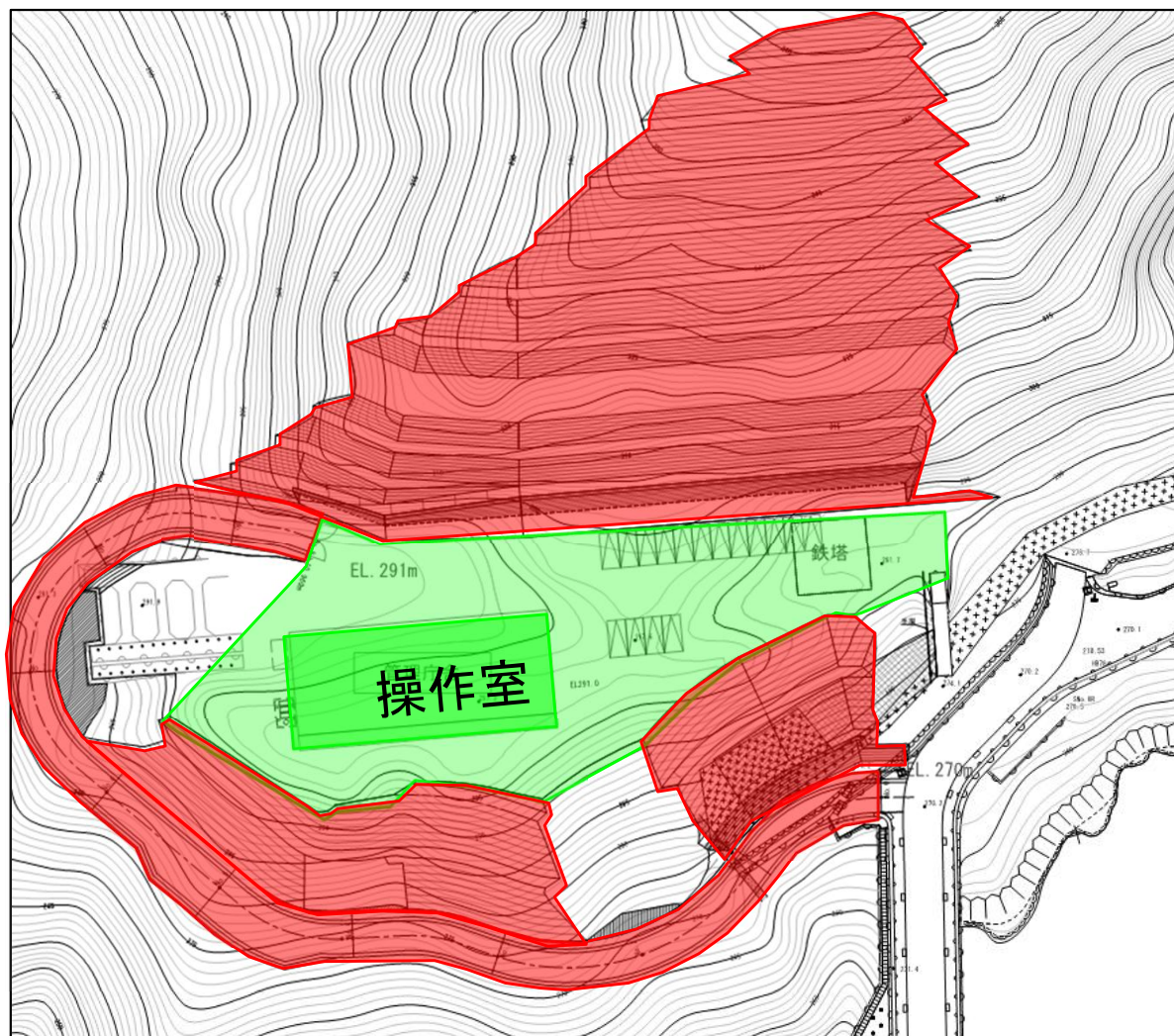
凡例	
	R7年度以前
	R8年度
	R9年度以降
	現道



3)個別説明

(1) 治水対策関係 工事費

当初(百万円)	実施内容
約580.0	操作室への進入路工事の実施及び背面の法面工事の着手



凡例	
■	R7年度以前
■	R8年度
■	R9年度以降



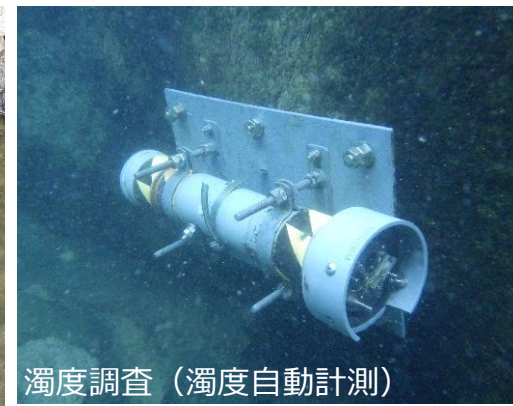
3) 個別説明

(2) 継続調査関係 測量設計費

当初(百万円)	実施内容
約110.0	物理環境及び生物環境調査、土砂還元による河道の変化等を予測するためのシミュレーションを実施

<物理環境調査>

河川測量



<生物環境調査>

アユ生育調査



猛禽類調査 (クマタカ)



両生類調査 (カジカガエル)



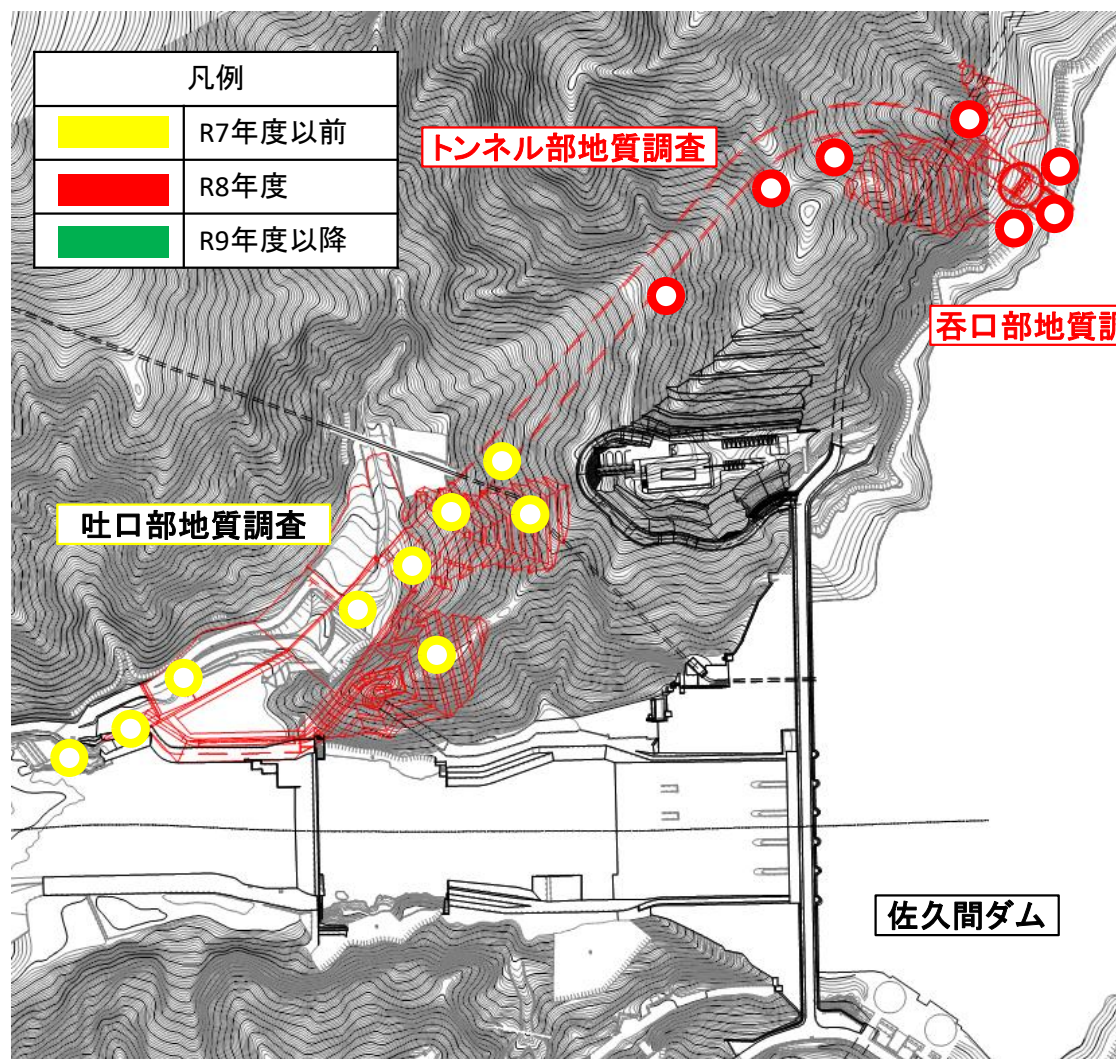
植生調査 (ムギラン)



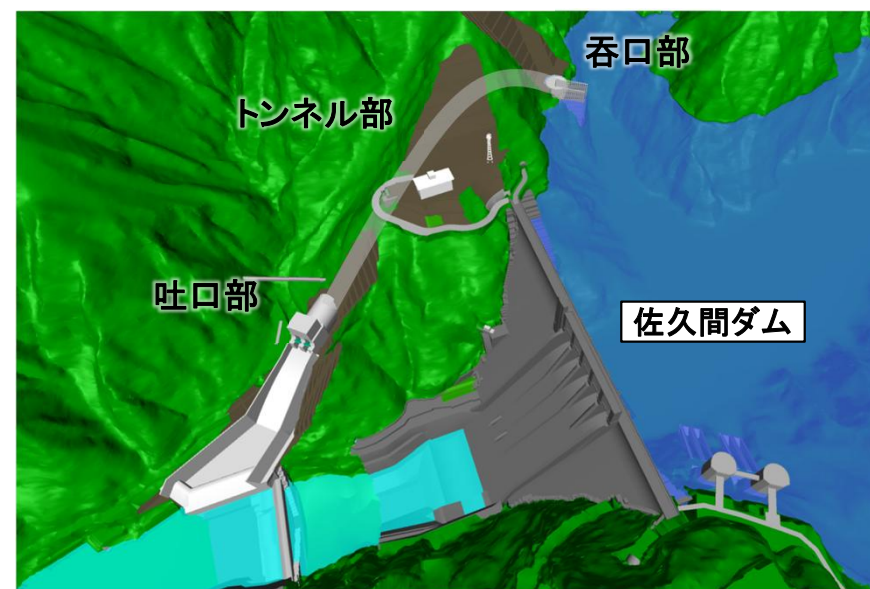
3) 個別説明

(3) 治水対策関係 測量設計費

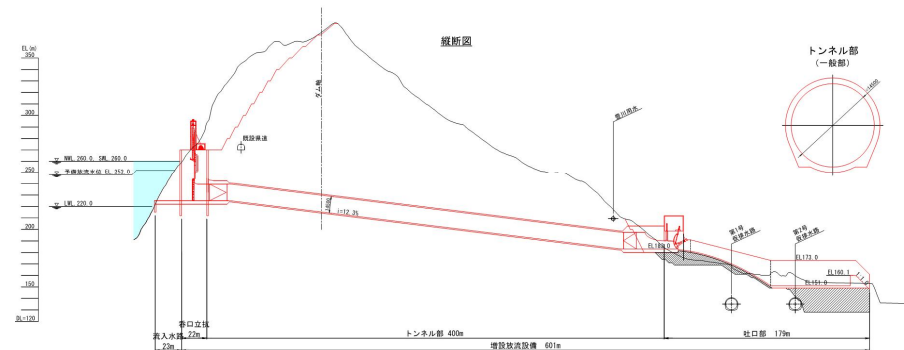
当初(百万円)	実施内容
約110.0	増設放流設備の設計及び設計等に伴う地質調査を実施



増設放流施設平面図



増設放流施設CIMIによるイメージ



増設放流施設縦断図

5.本事業における取組

- 佐久間地区には豊かな自然と天竜川を軸とした文化に根差した祭りや食文化などの魅力あふれる資源にあふれ、「NPO法人がんばらまいか佐久間」や「#佐久間ダム際ワーキング」などが主体となって地域資源を生かした地域づくりに取り組んでいる。
- 三遠南信トライアングルの中にある佐久間地区の強みや地域資源を生かした地域づくりと協働しながら、住民が関わりやすいテーマを通じて事業理解の促進を図る。

佐久間地域住民による地域づくり

地域・世代を越えた交流



越境学習ツアー
(#佐久間ダム際ワーキング)

地域資源



森林伐採体験
(森林組合)



地域力向上



佐久間新そばまつり
(NPO法人がんばらまいか佐久間)

Etc.

文化伝承



純粋はちみつ
(ミキの会)

竜神まつり

5.本事業における取組(事業地での取組)

- 「第26回佐久間新そばまつり」に事業の理解促進・認知向上のためPRブースを設置した。
- 佐久間地域住民や天竜川下流域の受益地住民を中心に約300名がPRブースに来訪した。
- 地元高校生と協働作成したメッセージボード(工事伐採木を活用)や大人をターゲットにしたPRグッズ(ウッドキャンドル等)により大人も興味を持って来訪し、説明を通じて事業理解に繋がった。
- 工事現場から発生した伐採木をPRグッズとして有効活用し、コスト縮減もPR。



工事発生材を活用したメッセージボード
(佐久間ダムの焼き印が好評)



昨年に続きリピータも多く来訪
(子供たちは楽しんでいたとのこと)



ウッドキャンドルやスウェーデントーチ(大人向け)



天竜高校生徒と協働作成したメッセージボード



未来への希望や佐久間地域への想いを綴った
メッセージツリー



天竜高校の生徒と協働してメッセージボードを作成



住民との直接対話による佐久間地域への思いを共有

5.本事業における取組(受益地での取組)

- 磐田市主催で、官公庁、土木業者、大学など多数の土木関係団体が協力して「いわた土木LOVEフェスタ2026」が5/30(土)に開催され、天竜川ダム再編事業及び天竜川ダム再編工事事務所の認知度向上を目的に事務所ブースを設置した。
- 国内最大級の子ども向け土木イベントで、当事務所ブースにも少なくとも100名の子どもたちが訪れた。
- 子どもたちに天竜川の生態系に関心を持ってもらう目的で設置したペーパークラフトでの魚釣り体験は大人気であった。
- 事業概要と併せて放映した佐久間ダムの建設当時の写真に、親世代、祖父母世代の方にも足をとめていただいた。

天竜川に生息する魚のペーパークラフトを配布
「たくさんつれたよ!」などの親子の楽しい会話がありました



佐久間ダム建設当時の写真を放映



当日は天気がよく大盛況でした



子供たちの感想



魚釣り体験の様子



重機の操縦体験コーナーや働く自動車の展示コーナー也大盛況でした



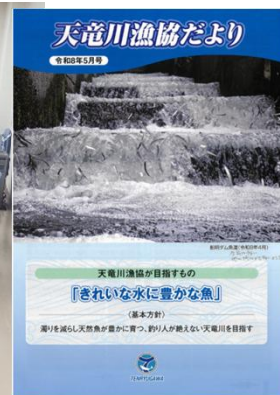
工事のお知らせ風看板

(参考)天竜川漁業協同組合 養殖施設見学～初夏～

- 魚類への影響の参考にするため、7月2日に天竜川漁業協同組合の養殖施設見学をさせていただきました。
- 事務局長谷高氏より、漁協の活動内容や天竜川に対する思い、事業者に期待すること等伺った。
- 天竜川のアユの生態や配慮すべき事項など、本事業における環境への影響を検討する上で必要な知見をいただきながら、今後も漁業関係者と密な連携を行い事業を進めて行く。



谷高事務局長より天竜川漁協の活動内容を伺いました

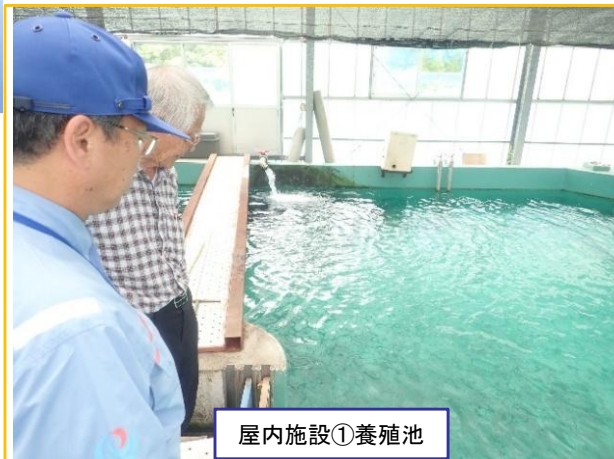


放流魚を運搬する車両



出典: Google Map

- ・天竜川漁業協同組合の漁業権対象種は9種
- ・毎年計画的に資源の管理を行うため、目標増殖量が課されており、放流や養殖、産卵床造成等や、河川環境整備として河川清掃を行っている
- ・アユとサツキマスの養殖を行っている
- ・良好な河川環境の保全・形成を推進する取組を実施して欲しい



屋内施設①養殖池



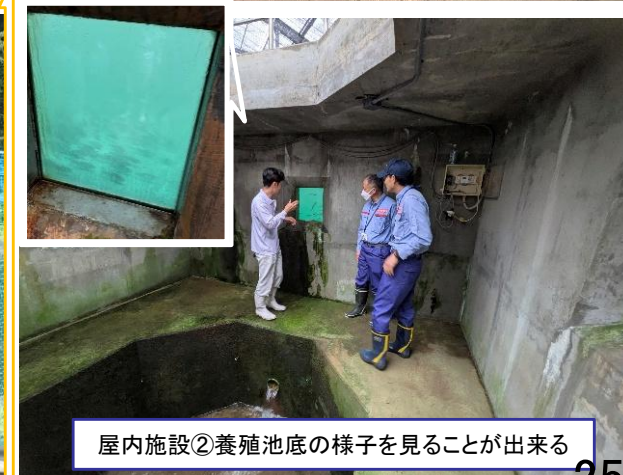
屋内施設②養殖池は八角形



説明いただいた漁協の皆様と参加職員 ご協力ありがとうございました



屋外施設 養殖池は円形



屋内施設②養殖池底の様子を見ることが出来る